

建築史 (History of Architecture III)

担当教員名	玉田 浩之	
学科・専攻, 科目詳細	建築学科 5年 前期 2単位 学修単位 講義	
学科のカリキュラム表	専門科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	専門工学科目 専門応用系	
学習・教育目標	共生システム工学	B-2(50%) C-1(20%) H-1(30%)
	JABEE基準1(1)	(a) (b) (d)
科目の概要	20世紀を中心に日本や西洋の近代建築について講じる。近代建築が確立するまでの様々な造形理念を時系列的に紹介し、近代社会が求めた「人類に普遍的な価値」が建築においてどのように帰結したか、またそのことへの批判から様々な方向に広がるポストモダンと呼ばれる状況までの過程を講義する。また、近代建築を成立させた構造技術も合わせて理解を深める。	
テキスト(参考文献)	テキスト：鈴木博之編著『近代建築史』市ヶ谷出版社（2008） 参考文献：松隈洋著『近代建築を記憶する』建築資料研究社（2005）	
履修上の注意	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。	
科目の達成目標	(1) 近代社会の根底にある「人類に普遍的な価値」が西洋世界において建築ではどのような造形として成立したかを理解するとともに、それが世界に拡大する過程で生じた地域文化との軋轢のなかで、世界が多様な建築文化で成り立っていることを理解する(B-2)。 (2) 近代社会に生きる建築家たちが、都市問題や住宅問題に取り組んだ建築家の倫理観についても触れ、そのことの意義を理解する(C-1)。 (3) 歴史上、建築構造学が土木工学を含めた広い技術から生じたこと理解し、隣接分野への関心を深める(H-1)。 目標を達成するために自己学習が必要である。必ず教科書に目を通してから授業に参加すること。	
自己学習	各週のテキスト該当箇所の予習と復習。近代建築の研究対象を選んで各自調査し、成果をレポートにまとめる。調査の成果をスライド形式でまとめ、発表の準備をする。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/4以上の欠課
	達成目標(1)(2)：近代建築の代表的な建築理念を理解し、モダンデザインの成立過程を理解すること。近代建築家の社会的な取り組み理解すること。中間・期末の定期試験で評価する(B-2、C-1、H-1)(50%)。 達成目標(3)：近代建築の代表作1点を選択し、自らの視点を明らかにした上で批評レポートを作成・発表する。論理的な展開の明快さで評価する(B-2、C-1、H-1)(50%)。 総合評価として60%以上達成した者を合格とする。	
連絡先	tamada.h@otemae.ac.jp	

授業の計画・内容	
第1週	西洋近代：近代化の衝撃
第2週	西洋近代：近代建築の模索
第3週	西洋近代：近代運動の推進力
第4週	西洋近代：近代運動の広がりと反動
第5週	西洋近代：国際化社会と多様性の萌芽
第6週	日本近代：洋風建築の本格的導入
第7週	日本近代：住宅建築と都市
第8週	(中間試験)
第9週	日本近代：近代都市のなかの建築
第10週	日本近代：近代建築の導入
第11週	日本近代：日本から世界へ
第12週	現代建築：1960年代：世界と日本の共振
第13週	現代建築：1970年代：モダニズムの反省
第14週	現代建築：1980年代：ポストモダンの開花
第15週	現代建築：1990年代以降のグローバル化
期末試験	